

近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

目的 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者、及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。

- 成果**
1. 黒田記念館の鑑賞の手引きとなる『黒田清輝 黒田記念館所蔵品より』を編集・刊行した。
 2. 当研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、黒田家・樺山家・旧藩主島津家・杉家・橋口家・篠塚家から差し出された書簡の目録と一部の翻刻を『美術研究』426号・427号に掲載した。
 3. 明治期に活躍した女性日本画家、武村耕靄についての部内研究会を開催(18.4.24)、その成果を『美術研究』427号に掲載した。
 4. 明治～大正期に活躍した女性日本画家、栗原玉葉についての論考を『美術史』185冊(18.10)及び長崎歴史文化博物館で開催された展覧会「新章ジャパンビューティ」図録(18.12)に掲載、同展に際して催されたシンポジウム「栗原玉葉をめぐる物語」に田所・塩谷が講師として参加した(19.1.13)。
 5. カリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館に開設した美術評論家のヨシダ・ヨシエ文庫についての部内研究会を開催した(18.5.23)。
 6. 久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳に着手した。
 7. 第52回オープンレクチャーで、藤田嗣治・常玉・陳澄波の描いた裸婦についての研究発表を行った(18.10.27)。



ヨシダ・ヨシエ文庫についての部内研究会の様子

- 論文**・田所泰：「栗原玉葉の《朝妻桜》に関する一考察 その制作意図を中心に」『美術史』185 pp.117-137 18.10
- ・田所泰：「栗原玉葉筆《お夏の思い》考 その色彩表現に注目して」五味俊晶編『栗原玉葉』長崎文献社 pp.204-220 18.12
 - ・田所泰：「武村耕靄と明治期の女性日本画家に関する研究」『美術研究』427 pp.15-78 19.3
- 発表**・田所泰：「武村耕靄と明治期の女性日本画家について」第1回文化財情報資料部研究会 18.4.24
- ・橘川英規：「カリフォルニア大学ロサンゼルス校におけるアーカイブズの収受・保存・提供—ヨシダ・ヨシエ文庫を例に」第2回文化財情報資料部研究会 18.5.23
 - ・山梨絵美子：「裸婦に表された地域性 フジタ・常玉・陳澄波を例に」第52回オープンレクチャー 18.10.27
 - ・塩谷純：『黒田清輝 黒田記念館所蔵品より』印象社 19.1

刊行物

○塩谷純、山梨絵美子、橘川英規、城野誠治、野城今日子(以上、文化財情報資料部)、三上豊、丸川雄三、

研究組織 田中淳、齋藤達也、田所泰(以上、客員研究員)